

MA2011-4

船 舶 事 故 調 査 報 告 書

平成23年4月22日

運 輸 安 全 委 員 会

### **(東京事案)**

- 1 貨物船泉栄丸漁船第二利丸漁船第三利丸衝突 (漁具)
- 2 漁船第五十八寿和丸沈没
- 3 コンテナ専用船 KUO CHANG 作業員死亡

### **(地方事務所事案)**

#### **函館事務所**

- 4 漁船第六十七朝洋丸乗組員死亡
- 5 漁船第八幸福丸沈没
- 6 漁船第三十三千代丸漁船第五十三寶来丸衝突
- 7 漁船姫丸転覆

#### **仙台事務所**

- 8 モーターボート光成丸乗組員死亡
- 9 漁船幸一丸乗組員死亡
- 10 油送船大弘丸乗組員負傷

#### **横浜事務所**

- 11 漁船宝久丸転覆
- 12 漁船喜栄丸乗組員負傷
- 13 水上オートバイライジングプラス衝突 (防波堤)
- 14 遊漁船第十一栃木丸漁船英樹丸衝突
- 15 漁船第二政栄丸乗組員死亡
- 16 プレジャーヨット颯転覆
- 17 貨客船おがさわら丸旅客負傷
- 18 貨物船慶洋丸乗組員死亡

#### **神戸事務所**

- 19 漁船第一英祐丸火災
- 20 モーターボート山崎丸ゴムボートフィッシング3号衝突
- 21 遊漁船海斗丸モーターボートラークII世衝突
- 22 引船第十七室生丸台船D-105乗組員負傷
- 23 貨物船いなりゆう乗揚

#### **広島事務所**

- 24 漁船第三美津丸乗組員死亡
- 25 貨物船海豊丸乗組員負傷
- 26 漁船蛭子丸モーターボートルクプル衝突
- 27 貨物船 UNION FORTUNE 引船第二十八富美丸台船ヤマカ57 SD103衝突
- 28 引船第三十八長洋丸漁船第2光亮丸衝突

29 油送船第五玉吉丸乗揚

**門司事務所**

30 貨物船誠寿丸遊漁船第三べっふ丸衝突

31 プレジャーモーターボートE t e r n a l 一麦乗揚

32 貨物船 TAIYOUNG STAR 貨物船 RICH QUEEN 衝突

**那覇事務所**

33 旅客船トムソーヤ漁船章丸衝突

34 遊漁船幸丸漁船勇飛丸衝突

本報告書の調査は、本件船舶事故に関し、運輸安全委員会設置法に基づき、運輸安全委員会により、船舶事故及び事故に伴い発生した被害の原因を究明し、事故の防止及び被害の軽減に寄与することを目的として行われたものであり、事故の責任を問うために行われたものではない。

運輸安全委員会  
委員長 後藤 昇 弘

《参 考》

本報告書本文中に用いる分析の結果を表す用語の取扱いについて

本報告書の本文中「3 分 析」に用いる分析の結果を表す用語は、次のとおりとする。

- ① 断定できる場合  
・・・「認められる」
- ② 断定できないが、ほぼ間違いない場合  
・・・「推定される」
- ③ 可能性が高い場合  
・・・「考えられる」
- ④ 可能性がある場合  
・・・「可能性が考えられる」  
・・・「可能性があると考えられる」

## 17 貨客船おがさわら丸旅客負傷

## 船舶事故調査報告書

平成23年3月24日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 横山 鐵 男（部会長）  
 委員 山本 哲 也  
 委員 石川 敏 行

事故種類	旅客負傷
発生日時	平成22年9月25日（土） 03時08分ごろ
発生場所	東京都八丈町八丈島南南東方沖 八丈島灯台から真方位154°55海里付近 （概位 北緯32°15.3′ 東経140°20.5′）
事故調査の経過	平成22年9月25日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	貨客船 おがさわら丸、6,700トン 135861、小笠原海運株式会社及び独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 131.00m×17.20m×9.25m、鋼 デーゼル機関、19,859kW、平成8年11月
乗組員等に関する情報	船長 男性 61歳 一級海技士（航海） 免許年月日 平成9年9月4日 免状交付年月日 平成19年1月25日 免状有効期間満了日 平成24年9月3日 旅客A 男性 63歳
死傷者等	負傷 1人（旅客A）
損傷	なし
事故の経過	本船は、船長ほか43人が乗り組み、旅客555人を乗せ、貨物約16.29tを積載し、東京都小笠原村（父島）二見港から、京浜港東京区に向け、船首右方からの風浪による船体動揺を抑えるため、船速を約13.6ノットに減速して航行した。 旅客Aは、本船が八丈島南南東方沖を北進中、平成22年9月25日03時08分ごろ、小用を終え便所出入口の内開きドアのドアノブに手を掛け、ドアを開けた時、船体が動揺して体のバランスを崩し、同便所前の船内通路を挟んだ反対舷に設置された婦人用便所の鋼製壁に打ち付けられ昏倒した。 旅客Aは、海上保安庁のヘリコプターにより吊り上げられて救助され、病院に搬送されて、頸髄損傷と診断された。
気象・海象	気象：天気 雨、風向 北、風力 12 海象：波高 25日00時 約5.5m、25日04時 約7m 伊豆諸島南部（八丈島）に波浪警報、強風・雷注意報発表中

その他の事項	<p>本船は、25日03時ごろ、船体の横揺れ角度約20°～25°、同周期約10秒、また、縦揺れ角度約10°～20°、同周期約10～20秒で航行していた。</p> <p>本船は、フィンスタビライザーを使用中であった。</p> <p>本船は、荒天のため手動操舵により航行していた。</p> <p>本船は、荒天時の船内歩行に関する注意喚起を船内放送で行っていた。</p> <p>旅客Aは、当時、船内スリッパを履き、スポーツシャツとトレーニングパンツを着用していた。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>なし</p> <p>なし</p> <p>あり</p> <p>本船は、八丈島南南東方沖を北進中、旅客Aが、便所から自室に戻る際、船体動揺により体のバランスを崩し、鋼製壁に打ち付けられて負傷したものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が八丈島南南東方沖を北進中、旅客Aが、便所から自室に戻る際、船体動揺により体のバランスを崩したため、鋼製壁に打ち付けられたことにより発生したものと考えられる。</p>	